

としと ざかな 年取り魚



きゅうしょくゆうびん
松本市学校給食センター

ひがし にし ～東のサケ・西のブリ～

としと ざかな おお
年取り魚とは大みそか、としこ た ざかな
年越しに食べられる魚のことです。むかし うみ とお
昔は海から遠い
ちいき さかな た
地域ではなかなか魚が食べられなかったため、ほそん えんぞうひん しお
保存がきく塩蔵品の塩サケや塩ブリが
た
食べられてきました。

としと ざかな ちいき ちが ひがし にし
年取り魚は地域によって違いがあり、「東のサケ・西のブリ」とよばれています。

サケとブリをわける東西の

きょうかいせん にいがたけん いといがわ
境界線は新潟県の糸魚川

しずおかけん むす
あたりと静岡県を結んだ
ところといわれています。

にしにほん
西日本はブリ

ひがしにほん
東日本はサケ

ながのけん きょうかいせん うえ
長野県は境界線の上にあるため

ちいき としと ざかな ちが
地域によって年取り魚が違います。

ちゅうなんしん まつもとし とくほくしん
中南信(松本市など)はブリ、東北信

ながのし うえだし た
(長野市や上田市など)はサケを食べる

ことが多いです。

